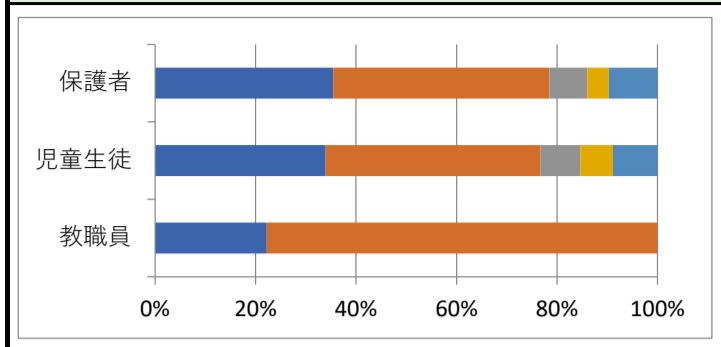
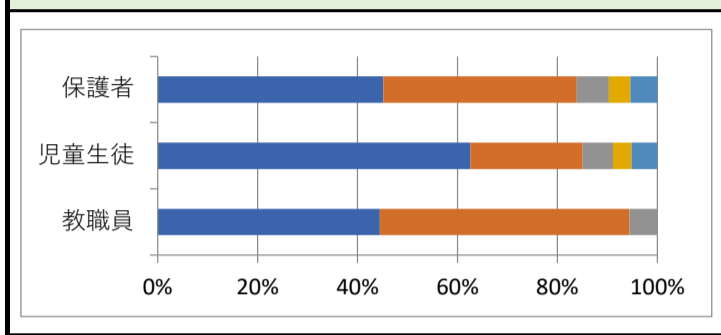
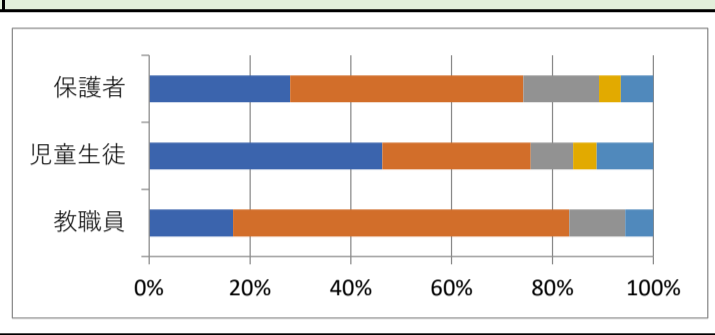


令和7年度 学校評価

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そうわない ■ うわない ■ わからない ■

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察
1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にすする心、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など)	2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進 学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。	「1 豊かな心と健やかな体を育む教育」については、昨年度と比較して、保護者・児童の「そう思う」の割合が10ポイント以上上がっている。反面、教職員の15ポイント程度下がっており、保護者と教職員の捉え方には差が見られる。「2 自ら学びに向かう力」は、保護者の「そう思う」の割合が10ポイント程度上がっている。しかし、「どちらかといえば、そうわない」の割合も5ポイント程度上がっているため、自ら学びに向かう力に対する保護者の捉え方としては、二極化している傾向がうかがえる。その他の割合は変わらない。
(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のまわり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など)		昨年度と比較して、保護者の「そう思う」の割合は15ポイント程度上がっており、「どちらかといえばそう思う」までを含めた肯定的な回答の割合に大きな変化は見られない。反面、児童の「そう思う」の割合が10ポイント程度下がっており、「どちらかといえばそう思う」までを含めた肯定的な回答の割合も、10ポイント程度下がっている。地域社会への貢献の捉え方については、保護者と当事者である児童との間に、大きな開きがあると考えられる。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。	学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。	「こどもが学ぶ授業づくり」についての保護者の肯定的な回答の割合が、昨年度比で5ポイント程度上上がっている。反面、教職員の「そう思う」の割合が0になっており、子どもが学ぶ授業づくりのための学習環境の整備などの課題改善が必要である。「対話を学びに生かす授業」については、保護者・児童の肯定的な回答の割合は変わらないが、保護者の「そう思う」の割合は20ポイント程度上上がっている。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実 学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。	7 インクルーシブ教育の推進 学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。	「6 教育的ニーズに対応した支援」については、昨年度と比較して大きな変化は見られないが、教職員の「そう思う」の割合は10ポイント程度上上がっている。「7 インクルーシブ教育」においても大きな変化は見られないが、保護者の「そう思う」の割合が15ポイント程度上上がっている。次年度の子ども一人一人を尊重した教育を推進していくためには、今年度の取組を継続しつつ、保護者や児童のニーズをより丁寧に把握することに努め、学校全体の満足度を上げていく必要があると考える。
(3) 最適な教育環境の整備		
8 安全・安心な園づくりの推進 学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育(生活・交通・防災など)に取り組んでいると思いますか。	9 地域や家庭と連携した教育環境の整備 学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。	「8 安全教育」については、昨年度と比較して、保護者の「そう思う」の割合が15ポイント上がっている。反面、教職員の「そう思う」の割合は15ポイント程度下がっている。保護者からの見取と教職員の実感に差が見られる。「9 地域や家庭との連携」は、保護者の「そう思う」の割合が15ポイント上がっている。研究モデル校として取り組んでいるコミュニティスクールに関連した取り組みについて、保護者からの一定程度の評価を得ることができている。
(4) こどものいのちと権利の擁護		
10 こどもの最善の利益を守る環境づくり		

<p>学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。</p>		<p>昨年度と比較して、保護者の「そう思う」の割合が10ポイント程度上がっている。児童の肯定的な回答の割合も5ポイント程度上がっている。反面、教職員の「そう思う」の割合は15ポイント程度下がっているため、年度末の職員会議等において、子どもや保護者が相談しやすい学校づくり推進のための具体的取り組みを協議する必要があると考える。（今年度は、教育相談の期間を7月に設け、新たな取り組みとして実施した。）</p>																								
 <table border="1"> <caption>「学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。」の回答割合</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>「そう思う」</th> <th>「まあまあ思う」</th> <th>「どちらでもない」</th> <th>「あまり思わない」</th> <th>「全然思わない」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>35%</td> <td>45%</td> <td>15%</td> <td>5%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>35%</td> <td>45%</td> <td>15%</td> <td>5%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>20%</td> <td>65%</td> <td>10%</td> <td>5%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>		対象者	「そう思う」	「まあまあ思う」	「どちらでもない」	「あまり思わない」	「全然思わない」	保護者	35%	45%	15%	5%	0%	児童生徒	35%	45%	15%	5%	0%	教職員	20%	65%	10%	5%	0%	
対象者	「そう思う」	「まあまあ思う」	「どちらでもない」	「あまり思わない」	「全然思わない」																					
保護者	35%	45%	15%	5%	0%																					
児童生徒	35%	45%	15%	5%	0%																					
教職員	20%	65%	10%	5%	0%																					

独自項目																																																		
独自項目1	独自項目2																																																	
<p>学校の先生は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<p>あなた（お子さん）は自分の力で「スキップで行きたい学校づくり」に取り組んでいますか。</p>																																																	
 <table border="1"> <caption>「学校の先生は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。」の回答割合</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>「そう思う」</th> <th>「まあまあ思う」</th> <th>「どちらでもない」</th> <th>「あまり思わない」</th> <th>「全然思わない」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>45%</td> <td>45%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>60%</td> <td>35%</td> <td>5%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>45%</td> <td>45%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	「そう思う」	「まあまあ思う」	「どちらでもない」	「あまり思わない」	「全然思わない」	保護者	45%	45%	10%	0%	0%	児童生徒	60%	35%	5%	0%	0%	教職員	45%	45%	10%	0%	0%	 <table border="1"> <caption>「あなた（お子さん）は自分の力で「スキップで行きたい学校づくり」に取り組んでいますか。」の回答割合</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>「そう思う」</th> <th>「まあまあ思う」</th> <th>「どちらでもない」</th> <th>「あまり思わない」</th> <th>「全然思わない」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>30%</td> <td>50%</td> <td>15%</td> <td>5%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>45%</td> <td>45%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>15%</td> <td>65%</td> <td>15%</td> <td>5%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	「そう思う」	「まあまあ思う」	「どちらでもない」	「あまり思わない」	「全然思わない」	保護者	30%	50%	15%	5%	0%	児童生徒	45%	45%	10%	0%	0%	教職員	15%	65%	15%	5%	0%	<p>教職員の授業づくりに対する評価は、保護者や教職員の「そう思う」よりも、児童の割合の方が15～20ポイント程度高かった。反面、教職員の肯定的な回答の割合よりも、保護者・児童の割合は低くなっている。児童の学校づくりへの参画についての評価は、「そう思う」の割合が子どもより大人の方が低くなっている。「スキップで行きたい学校づくり」への参画を評価する視点を保護者・児童・教職員で共有し、年間の取組を評価するようにしていくことで、大人と子どもの間にあるギャップが改善されていくと考える。</p>
対象者	「そう思う」	「まあまあ思う」	「どちらでもない」	「あまり思わない」	「全然思わない」																																													
保護者	45%	45%	10%	0%	0%																																													
児童生徒	60%	35%	5%	0%	0%																																													
教職員	45%	45%	10%	0%	0%																																													
対象者	「そう思う」	「まあまあ思う」	「どちらでもない」	「あまり思わない」	「全然思わない」																																													
保護者	30%	50%	15%	5%	0%																																													
児童生徒	45%	45%	10%	0%	0%																																													
教職員	15%	65%	15%	5%	0%																																													

来年度の具体的な取組について

○子どもたちの今の思いを捉えるための定期的な取組として、毎月「きずなアンケート」を実施している。この回答結果を基に、子ども一人一人のニーズに合ったきめ細やかな対応を丁寧に行っていく、必要に応じて校内での情報共有を行いながら、学校全体への集団指導を組み合わせることで、豊かな心の育成や支持的風土の育成、自他を大切にできる態度の育成に取り組んでいく。

○自ら学びに向かう力の育成では、校内研修の充実を基本に取り組む。今年度は、昨年度まで設定してきた研究主題「協働的に学ぶ子どもの育成を目指して～深い学びの姿を求めて～」を継続し、研究の視点として「主体的な学び」「対話の質」「深い学びの実現」など、自身の設定したテーマを明らかにできるように日々研究実践を行っている。年度末には、1年間の成果を共有し、次年度明らかにしたい内容を見出しながら、研究を積み重ねていっている状況である。

○夏休みには、校内研修の一環として、2学期のカリキュラムにおける地域との連携について、教育委員会・保護者・地域コーディネーター・東部まちづくりセンター・拡大評議委員・教職員で協議する場を設けた。2学期からの連携について、同じゴールを共有しながら、地域連携を進めていく上で有効な場になったと考える。

○教員が児童の困り感に寄り添ったり、保護者からの相談に校内で対応できる体制を整えることにより、多様なニーズに対応した支援の充実をに取り組んでいく。また、必要に応じて児童や保護者との面談の場を設けたり、外部の専門機関との連携（SC、SSW）をより一層進めていく。

○安全教育については、毎月1回の安全点検を行っていたが、委員会活動を活用し、児童の視点からも安全点検が行えるようにしていく。

○学校長のリーダーシップの下、学校教育目標の「夢と笑顔があふれる学校をめざして～みんなで作る『スキップで行きたい』学校」の実現に向けて、学校集会の場を活用しながら、学校全体で振り返ることができている。学校全体から意見を集められるように、タブレットのロイロノート等のICTの活用も積極的に取り組んでいる。次年度には、学校教育目標のよりよい実現に向けて、生徒指導や委員会活動、学級活動を通じた、児童主体で進められる取組を充実させていく。

○今年度も児童会活動として「あいさつ運動」の取組を充実させていったが、その取組を充実強化するために、中学校生徒会と協働であいさつ連携を行った。本校6年生児童の反応も良く、1つの行事を通じた小中連携を推進することができた。合計して3学期に2回実施したが、年度末までには同じ中学校に進学する東町小の6年生との連携も視野に入れた取組を行っていく。

小中学校関係者評価

【拡大評議委員】 8月の拡大評議委員会で行ったカリキュラムマネジメントは、大きく印象に残っている。学校のカリキュラムの中で、どういう協力ができるのかということを考えてきたが、CSとして協力できる場面を中心に、学校と地域が一緒になってカリキュラムについて協議できたので、学校の先生方の無理のない範囲で協力できることがうれしい。

【学校評議員】 今年度、子どもたちが地域から支援を受けて連携する場面がたくさん見られた。とても嬉しいことだと思う。次年度には、子どもたちが地域と交流することが、地域に支えられているという理解だけではなく、連携していることそのものが、地域を支える活動になっているということ、子どもたちが理解できるようになってほしい。

【地域教育推進課】

学校評価の結果から成果が見えている。とても喜ばしいことである。コミュニティースクールの取組は、学校だけが地域に助けてもらうのではなく、学校が地域づくりに参画している意識が大切だと考える。次年度にもモデル校は続くので、更なる発展を期待している。